

人間科学研究科

学位プログラム： 人間科学

授与する学位： 修士（人間科学）

教育目標

大阪大学の教育目標のもと、人間科学研究科は1978年に博士前期課程及び博士後期課程の大学院として発足して以来、人間と社会の現実を、行動学・社会学・人間学・教育学・共生学などのさまざまな学問分野の専門的知識（専門知）や、それらの研究方法を融合させて総合的にとらえる統合知を育成しながら、日本及び国際社会に貢献する能力を養うことを目的としています。その目的の実現のために、「学際性」、「実践性」、「国際性」の3つの理念を掲げ、高度な専門性に基づいて、各理念に沿った能力を備えた人材の育成を目指します。

○最先端かつ高度な専門性と深い学識

行動学系、社会学・人間学系、教育学系、共生学系のいずれかの学系に所属して、それぞれの学系での最先端の知識を学ぶことを通じて高度な専門知を修得すると同時に、学系横断的な考え方や着想力を養いながら、それぞれの専門分野の方法と成果を他の分野の知識と統合させた統合知の習得を目指します。

○高度な教養

専門分野の知識や研究手法を学びつつ、4学系横断の共通必修科目や他学系の科目を履修することで、学際的視点から人間科学を実践するための高度な教養の育成を目指します。

○高度な国際性

社会のグローバル化の趨勢から、国際的で多様な考え方を持つ人々とコミュニケーションできる能力やそれを裏付ける外国語能力の育成に取り組みます。

○高度なデザイン力

実験・調査・フィールドワークの活動を通じて専門知の技法を洗練化・高度化しつつ、社会や現場でのさまざまな研究課題における問題発見・解決力を育むための実践的な教育・研究に取り組みます。

○独自の教育目標

行動学・社会学・教育学・共生学などの多様な専門分野での実践の学びから専門知を育みつつ、それらを学際的な視野からまとめる統合知の習得も目指します。また、専門知や統合知を学内外や社会の現場との相互作用から生み出される共創知へと展開させるための実践力を養います。

博士前期課程では、高度な専門性を持ちながら、人間科学における幅広い学際的視野からさまざまな課題に取り組める職業人の養成や、博士後期課程に進学し研究者となるための基礎の習得を目指します。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

大阪大学のディプロマ・ポリシーのもと、人間科学研究科では、日本及び国際社会に貢献する能力を養うため、学際性・実践性・国際性という3つの理念に即した、以下にあげるような能力を修得した学生に修士（人間科学）を授与します。

○最先端かつ高度な専門性と深い学識

- ・行動学系、社会学・人間学系、教育学系、共生学系のうち、所属する学系の専門分野における高度な知識を体系的に理解している。
- ・自ら設定した課題についての高度な専門的知識、及びそれを人間科学的手法により分析・考察できる高度な研究スキルを修得している。

○高度な教養

- ・現代社会やそこに生きる人間におけるさまざまな課題に学際的視点から応えるために必要となる高度で、かつ、幅広い教養を持っている。

○高度な国際性

- ・日本及び国際社会に貢献するための学際的で幅広い知識や外国語力を十分に身につけている。
- ・自身の研究で得た知見を日本及び世界に発信するためのプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を持っている。

○高度なデザイン力

- ・自らの研究課題を発見しながら、実験・調査・フィールドワークにおいて専門分野や関連分野のさまざまな専門的知識や研究手法を融合させつつ、その課題に取り組める研究展開力を持っている。
- ・さまざまな専門的知識や考え方を持つ他者とコミュニケーションを取りながら、研究や課題解決を展開できる。

人間科学研究科の博士前期課程では、これらの能力を有し、さらに適切な研究指導を受けながら修士論文を完成させた学生に、社会で活躍するための高度な専門的知識や教養を備え、学際的視点からさまざまな課題に実践的に取り組める人材として学位を認定します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

大阪大学のカリキュラム・ポリシーのもと、人間科学研究科は、現代という未曾有の転換期に生きる、人間と人間が営む社会がかかえる諸問題を解決するために、グローバルな視点とローカルな知を融合する研究と実践をおこなうカリキュラム構成になっています。

＜教育課程編成の考え方＞

「人間科学専攻」の下に設置された4つの学系（行動学系、社会学・人間学系、教育学系、共生学系）における高度な専門的知識の獲得を促す科目を履修するとともに、学系横断的な知の獲得が可能となるように共通科目群の履修を求めます。科学的・実験実証的・統計学的なアプローチの科目、人文科学・文献研究・質的研究を重視する科目、フィールドワーク科目、そして国際コミュニケーション能力を育成する科目を提供することで、学際的・実践的・国際的な学びを可能にするカリキュラムとしています。

＜学修内容及び学修方法＞

博士前期課程では以下に示す多様な講義・演習を履修しつつ、適切な研究指導を受けながら修士論文を完成させます。

学際的な考え方や人間科学的な視座を学ぶために、博士前期課程では、必修の基礎科目として分野横断型科目を履修します。高度な専門的知識を習得するために、学系の下に設置された8つの大講座（人間行動学、行動生態学、社会環境学、基礎人間科学、臨床教育学、教育環境学、未来共生学、グローバル共生学）における多彩な講義科目・演習科目を系統的に履修します。各学系の全ての講義・演習は、大学院学生の所属学系・講座を問わず分野横断的に履修できます。さらに、高度なデザイン力や研究遂行力を学ぶために、少人数によるアクティブラーニングや文献購読などの演習科目、教員からの対面指導等による特定研究科目によって課題発見やその解決に向けた専門性の高い理論や研究手法・研究スキル等を実践的に習得します。

大学院学生にふさわしい高度な教養や幅広い学問領域の素養を涵養するために、所属講座以外の専門科目を履修します。また、高度な教養を養うために、高度副プログラムの科目や、異なる考え方や文化を持つ他者との協働性の涵養を目指して未来共生リーディング大学院プログラムが開発してきた科目の一部を共通科目として履修することができます。さらに、他研究科が提供する高度教養教育科目の履修ができます。

高度な国際性の基盤となる外国語力を涵養するために、英語の言語科目や英語で行われる人間科学英語コースの大学院学生向け科目を提供します。また、論理的文章作成力や外国語での論文執筆力を習得するために英語での論文作成・研究発表の演習科目も履修できます。国際性をより高めるために外国語で行われる共通科目の履修を通じて、外国語によるコミュニケーション力を養います。

<学修成果の評価方法>

学修の成果は、講義や演習の科目では、それぞれの科目のシラバスに記載されている学習目標の達成度について、成績評価の方法（試験や課題へのレポート等）を用いて評価します。実習・フィールドワーク科目では、それぞれの科目での学習目標に関するレポートや研究発表等への成績を基にして評価します。

カリキュラムマップ 人間科学研究科 人間科学専攻 学系全体 博士前期課程 学位プログラム：人間科学

	最先端かつ高度な専門性と深い学識	高度な教養	高度な国際性	高度なデザイン力	1年				2年			
					春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期
学習目標A 現代社会やそこに生きる人間におけるさまざまな課題に学際的視点から応えるために必要となる高度で、かつ、幅広い教養を持っている。		○			高度教養教育科目:インターンシップ等A・B、総合人間科学実習Ⅰ・Ⅱ、コミュニティ・ラーニング特定演習など							
学習目標B 行動学系、社会学・人間学系、教育学系、共生学系のうち、所属する学系の専門分野における高度な知識を体系的に理解している。	○			人間科学学際研究特講（必修）	専門教育科目/所属講座以外の授業科目および基礎科目(選択必修)							
学習目標C 自らの研究課題を発見しながら、実験・調査・フィールドワークにおいて専門分野や関連分野のさまざまな専門的知識や研究手法を融合させつつ、その課題に取り組める研究展開力を持っている。	○		○		専門教育科目(所属講座指定の選択必修): 基礎心理学特講Ⅰ、社会理論特講、人間科学基礎理論特講、教育人間学特講、共生の人間学特講Ⅰなど 専門教育科目(所属講座指定の選択):フィールドワーク実習Ⅰ・Ⅱ、方法実習Ⅰ・Ⅱ							
学習目標D さまざまな専門的知識や考え方を他者とコミュニケーションを取りながら、研究や課題解決を展開できる。			○		専門教育科目(所属講座指定の必修):特定研究Ⅰ・Ⅱ 修士論文				専門教育科目(所属講座指定の必修):特定研究Ⅰ・Ⅱ 修士論文			
学習目標E 自ら設定した課題についての高度な専門的知識、及びそれを人間科学的手法により分析・考察できる高度な研究スキルを修得している。	○		○		専門教育科目(所属講座指定の選択必修)のうち演習科目: 基礎心理学特定演習Ⅰ、現代社会と社会理論特定演習Ⅰ、教育人間学特定演習Ⅰ、共生の人間学特定演習Ⅰなど							
学習目標F 自身の研究で得た知見を日本及び世界に発信するためのプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を持っている。		○			高度国際性涵養教育科目(選択必修): 英語による国際コミュニケーションⅠ・Ⅱ							
学習目標G 日本及び国際社会に貢献するための学際的で幅広い知識や外国語力を十分に身につけている。		○			高度国際性涵養教育科目(選択): 人間科学国際特講Ⅰ～Ⅵ、 英語による論文作成・研究発表演習、 未来共生英語特定演習Ⅰ・Ⅱ、Academic Reading など							

	高度教養教育科目
	専門教育科目
	高度国際性涵養教育科目

カリキュラムマップ 人間科学研究科 人間科学専攻 行動学系 博士前期課程 学位プログラム：人間科学

	最先端かつ高度な専門性と深い学識	高度な教養	高度な国際性	高度なデザイン力	1年				2年			
					春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期
学習目標A 現代社会やそこに生きる人間におけるさまざまな課題に学際的視点から応えるために必要となる高度で、かつ、幅広い教養を持っている。		○			高度教養教育科目:インターンシップ等A・B、総合人間科学実習Ⅰ・Ⅱ、コミュニティ・ラーニング特定演習など							
学習目標B 行動学系、社会学・人間学系、教育学系、共生学系のうち、所属する学系の専門分野における高度な知識を体系的に理解している。	○			人間科学学際研究特講(必修)	専門教育科目/所属講座以外の授業科目および基礎科目(選択必修)							
学習目標C 自らの研究課題を発見しながら、実験・調査・フィールドワークにおいて専門分野や関連分野のさまざまな専門的知識や研究手法を融合させつつ、その課題に取り組める研究展開力を持っている。	○		○		専門教育科目/(所属講座指定の必修):特定研究Ⅰ・Ⅱ				専門教育科目/(所属講座指定の必修):特定研究Ⅰ・Ⅱ			
学習目標D さまざまな専門的知識や考え方を他者とコミュニケーションを取りながら、研究や課題解決を展開できる。			○		修士論文				修士論文			
学習目標E 自ら設定した課題についての高度な専門的知識、及びそれを人間科学的手法により分析・考察できる高度な研究スキルを修得している。	○		○		専門教育科目(所属講座指定の選択必修)のうち演習科目:特定演習Ⅰ・Ⅱ							
学習目標F 自身の研究で得た知見を日本及び世界に発信するためのプレゼンテーション能力や、コミュニケーション能力を持っている。			○		高度国際性涵養教育科目(選択必修): 英語による国際コミュニケーションⅠ・Ⅱ							
学習目標G 日本及び国際社会に貢献するための学際的で幅広い知識や外国語力を十分に身につけている。			○		高度国際性涵養教育科目(選択): 人間科学国際特講Ⅰ～Ⅵ、 英語による論文作成・研究発表演習、 未来共生英語特定演習Ⅰ・Ⅱ、Academic Readingなど							

	高度教養教育科目
	専門教育科目
	高度国際性涵養教育科目

カリキュラムマップ 人間科学研究科 人間科学専攻 社会学・人間学系 博士前期課程 学位プログラム：人間科学

	専門性 と深い学識	最先端かつ 高度な学識	高度な 国際性	高度な デザイン力	1年				2年			
					春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期
学習目標A 現代社会やそこに生きる人間におけるさまざまな課題に学際的視点から応えるために必要となる高度で、かつ、幅広い教養を持っている。			○		高度教養教育科目:インターンシップ等A・B、総合人間科学実習Ⅰ・Ⅱ、コミュニティ・ラーニング特定演習など							
学習目標B 行動学系、社会学・人間学系、教育学系、共生学系のうち、所属する学系の専門分野における高度な知識を体系的に理解している。		○			人間科学学際研究特講（必修）	専門教育科目/所属講座以外の授業科目および基礎科目（選択必修）						
学習目標C 自らの研究課題を発見しながら、実験・調査・フィールドワークにおいて専門分野や関連分野のさまざまな専門的知識や研究手法を融合させつつ、その課題に取り組める研究展開力を持っている。		○		○		専門教育科目（所属講座指定の選択必修）： 社会理論特講、現代社会学特講、計量社会学特講、社会データ科学特講、コミュニケーション社会学特講、人間科学基礎理論特講、科学哲学・分析哲学特講、認識論・形而上学特講、哲学と質的研究特講、哲学的人間学特講、現象学的な質的研究特講、比較文明学特講、比較思想史特講、人類学理論特講、グローバル化と文化特講、グローバル化と文化特講Ⅱ、応用人類学特講 専門教育科目（所属講座指定の選択）：社会環境学フィールドワーク実習Ⅰ・Ⅱ、社会環境学方法実習Ⅰ・Ⅱ、基礎人間科学フィールドワーク実習Ⅰ・Ⅱ、基礎人間科学方法実習Ⅰ・Ⅱ						
学習目標D さまざまな専門的知識や考え方を持つ他者とコミュニケーションを取りながら、研究や課題解決を展開できる。				○		専門教育科目/(所属講座指定の必修):特定研究Ⅰ・Ⅱ 修士論文			専門教育科目/(所属講座指定の必修):特定研究Ⅰ・Ⅱ 修士論文			
学習目標E 自ら設定した課題についての高度な専門的知識、及びそれを人間科学的手法により分析・考察できる高度な研究スキルを修得している。		○		○		専門教育科目/(所属講座指定の必修):特定研究Ⅰ・Ⅱ 修士論文						
学習目標F 自身の研究で得た知見を日本及び世界に発信するためのプレゼンテーション能力や、コミュニケーション能力を持っている。				○		専門教育科目（所属講座指定の選択必修）のうち演習科目:特定演習Ⅰ・Ⅱ						
学習目標G 日本及び国際社会に貢献するための学際的で幅広い知識や外国語力を十分に身につけている。				○		高度国際性涵養教育科目（選択必修）： 英語による国際コミュニケーションⅠ・Ⅱ						
						高度国際性涵養教育科目（選択）： 人間科学国際特講Ⅰ～Ⅵ、 英語による論文作成・研究発表演習、 未来共生英語特定演習Ⅰ・Ⅱ、Academic Readingなど						

	高度教養教育科目
	専門教育科目
	高度国際性涵養教育科目

カリキュラムマップ 人間科学研究科 人間科学専攻 教育学系 博士前期課程 学位プログラム：人間科学

	専門性 と高い学識	最先端かつ高度な学識	高度な教養	高度な国際性	高度なデザイン力	1年				2年			
						春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期
学習目標A 現代社会やそこに生きる人間におけるさまざまな課題に学際的視点から応えるために必要となる高度で、かつ、幅広い教養を持っている。			○			高度教養教育科目:インターンシップ等A・B、総合人間科学実習Ⅰ・Ⅱ、コミュニティ・ラーニング特定演習など							
学習目標B 行動学系、社会学・人間学系、教育学系、共生学系のうち、所属する学系の専門分野における高度な知識を体系的に理解している。		○			人間科学学際研究特講(必修)	専門教育科目/所属講座以外の授業科目および基礎科目(選択必修)							
学習目標C 自らの研究課題を発見しながら、実験・調査・フィールドワークにおいて専門分野や関連分野のさまざまな専門的知識や研究手法を融合させつつ、その課題に取り組める研究展開力を持っている。		○		○		専門教育科目(所属講座指定の選択必修): 教育人間学特講、人間変容論特講Ⅰ・Ⅱ、外国教育史特講、教育哲学特講、教育思想史特講、教育工学特講Ⅰ・Ⅱ、教育分野に関する理論と支援の展開、人格心理学特講、臨床心理学特講Ⅰ・Ⅱ、臨床心理面接特講Ⅰ(心理支援に関する理論と実践)、臨床心理面接特講Ⅱ、心理支援法特講(心理支援に関する理論と実践)、心理療法特講、障がい児(者)心理学特講Ⅰ・Ⅱ、臨床心理学研究法特講、保健医療分野に関する理論と支援の展開、心の健康教育に関する理論と実践、教育社会学特講、教育関係論特講、教育制度学特講、教育法学特講、日本教育史特講、生涯教育学特講、生涯スポーツ特講、ジェンダーと教育特講(A)、教育文化学特講、学校社会学特講、コミュニティ教育学特講 専門教育科目(所属講座指定の選択): 臨床教育学フィールドワーク実習Ⅰ・Ⅱ、臨床教育学方法実習Ⅰ・Ⅱ、教育環境学フィールドワーク実習Ⅰ・Ⅱ、教育環境学方法実習Ⅰ・Ⅱ							
学習目標D さまざまな専門的知識や考え方を他者とコミュニケーションを取りながら、研究や課題解決を展開できる。				○		専門教育科目/(所属講座指定の必修): 特定研究Ⅰ・Ⅱ 修士論文			専門教育科目/(所属講座指定の必修): 特定研究Ⅰ・Ⅱ 修士論文				
学習目標E 自ら設定した課題についての高度な専門的知識、及びそれを人間科学的手法により分析・考察できる高度な研究スキルを修得している。		○		○									
学習目標F 自身の研究で得た知見を日本及び世界に発信するためのプレゼンテーション能力や、コミュニケーション能力を持っている。				○		専門教育科目(所属講座指定の選択必修)のうち演習科目: 特定演習Ⅰ・Ⅱ							
学習目標G 日本及び国際社会に貢献するための学際的で幅広い知識や外国語力を十分に身につけている。				○		高度国際性涵養教育科目(選択必修): 英語による国際コミュニケーションⅠ・Ⅱ 高度国際性涵養教育科目(選択): 人間科学国際特講Ⅰ～Ⅵ、 英語による論文作成・研究発表演習、 未来共生英語特定演習Ⅰ・Ⅱ、Academic Readingなど							

	高度教養教育科目
	専門教育科目
	高度国際性涵養教育科目

カリキュラムマップ 人間科学研究科 人間科学専攻 共生学系 博士前期課程 学位プログラム：人間科学

	専門性 先端かつ 高度な 学識な	高度な 教養	高度な 国際性	高度な デザイン 力	1年				2年			
					春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期
学習目標A 現代社会やそこに生きる人間におけるさまざまな課題に学際的視点から応えるために必要となる高度で、かつ、幅広い教養を持っている。		○			高度教養教育科目:インターンシップ等A・B、総合人間科学実習Ⅰ・Ⅱ、コミュニティ・ラーニング特定演習など							
学習目標B 行動学系、社会学・人間学系、教育学系、共生学系のうち、所属する学系の専門分野における高度な知識を体系的に理解している。	○			人間科学学際研究特講(必修)	専門教育科目/所属講座以外の授業科目および基礎科目(選択必修)							
学習目標C 自らの研究課題を発見しながら、実験・調査・フィールドワークにおいて専門分野や関連分野のさまざまな専門的知識や研究手法を融合させつつ、その課題に取り組める研究展開力を持っている。	○		○		専門教育科目(所属講座指定の選択必修): 共生の人間学特講Ⅰ・Ⅱ、共生社会論特講Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、共生行動論特講Ⅰ(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)、共生行動論特講Ⅱ、国際協力学特講Ⅰ・Ⅱ、地域創生論特講Ⅰ・Ⅱ、コンフリクトと共生特講Ⅰ・Ⅱ、グローバル学特講、環境共生学特講Ⅰ・Ⅱ、環境共生学特定演習Ⅰ・Ⅱ、環境共生学特定研究Ⅰ・Ⅱ、コミュニティ学特講、共生社会論特定演習Ⅰ・Ⅱ、共生社会論特定研究Ⅰ・Ⅱ、福祉と人間学特定演習Ⅰ(共生の哲学)・同Ⅱ(共生の哲学)、福祉と人間学特定研究Ⅰ(共生の哲学)・同Ⅱ(共生の哲学)、福祉と人間学特定演習Ⅱ(福祉社会論)・同Ⅲ(福祉社会論)福祉と人間学特定研究Ⅱ(福祉社会論)・同Ⅲ(福祉社会論)、福祉と人間学特定演習Ⅲ(マイノリティと共生)、国際協力学特定演習Ⅰ・Ⅱ、国際協力学特定研究Ⅰ・Ⅱ 専門教育科目(所属講座指定の選択): 未来共生学フィールドワーク実習Ⅰ・Ⅱ、未来共生学方法実習Ⅰ・Ⅱ、グローバル共生学フィールドワーク実習Ⅰ・Ⅱ、グローバル共生学方法実習Ⅰ・Ⅱ							
学習目標D さまざまな専門的知識や考え方を持つ他者とコミュニケーションを取りながら、研究や課題解決を展開できる。			○		専門教育科目/(所属講座指定の必修):特定研究Ⅰ・Ⅱ 修士論文				専門教育科目/(所属講座指定の必修):特定研究Ⅰ・Ⅱ 修士論文			
学習目標E 自ら設定した課題についての高度な専門的知識、及びそれを人間科学的手法により分析・考察できる高度な研究スキルを修得している。	○		○		専門教育科目/(所属講座指定の必修):特定研究Ⅰ・Ⅱ 修士論文							
学習目標F 自身の研究で得た知見を日本及び世界に発信するためのプレゼンテーション能力や、コミュニケーション能力を持っている。			○		専門教育科目(所属講座指定の選択必修)のうち演習科目:特定演習Ⅰ・Ⅱ							
学習目標G 日本及び国際社会に貢献するための学際的で幅広い知識や外国語力を十分に身につけている。			○	高度国際性涵養教育科目(選択必修): 英語による国際コミュニケーションⅠ・Ⅱ 高度国際性涵養教育科目(選択): 人間科学国際特講Ⅰ～Ⅵ、 英語による論文作成・研究発表演習、 未来共生英語特定演習Ⅰ・Ⅱ、Academic Readingなど								

	高度教養教育科目
	専門教育科目
	高度国際性涵養教育科目